

第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会
第 7 回議事録（概要版）

開催日程：2020 年 9 月 14 日（月）15：00～16：15

場所：オンライン

出席者：小松、井上、永瀬、川口、正木、西村（記録）

欠席：岩崎、寶金

（順不同、敬称略）

資料

1-1 第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会ケアサイエンス分科会第 6 回議事録（概要版）

1-2 第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会ケアサイエンス分科会第 6 回議事録（詳細版）

2 第 24 期活動報告

3 提言「ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造」

4-1 『ケアサイエンス』書籍出版（案）

4-2 学術会議叢書（目次例）

4-3 学術会議叢書及び日学新書の出版について

4-4 叢書作成にあたって

議題

（1）委員会からの報告など

第 6 回議事録について承認され、概要版の公開が確認された。

小松委員長から、第 24 期は健康・生活科学委員会ではマスタープラン（2020）を提出することを計画し、その実現が大きな取り組みであったことが報告された。特に、少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会の委員からは多くの意見を頂いた。審査結果としては、ヒアリングを受けるところまで残ることができた。そのため、文部科学省のロードマップ（2020）に提出する権限をもらえ、ロードマップ（2020）にも提出したが、ヒアリングには残らなかった。大規模研究は、科学技術開発に焦点が当たっており、人間のソフトを扱う研究申請が難しいことを実感した。特許への対応、施設の設置場所、海外との具体的連携、協力機関の長、例えば大学学長との調整などもあった。綿密に準備をしながら進めることが重要であり、今後もこの点を考慮して検討したい。

（2）提言の発出について

資料 2、3 をもとに、小松委員長より、第 24 期は提言の発出を行ったこと、次期は、この提言をもとに、一般の方々にケアサイエンスを理解いただける活動に移っていく必要があることが報告された。

前回分科会から提言の採択まで、第二部及び幹事会から多くのコメントを頂き、修正をしたことが、西村委員から報告された。指摘事項には、「ケア」「ケアサイエンス」「ケア共同社会」「相互補完的關係」の定義、市民プロフェッショナルの定義、国土学の座標軸との

関係、ケアサイエンスがモード 2 の知的生産様式であることの説明、文部科学省への具体的要望内容などがあった。

(2) 成書化について

資料 4-1 に基づいて、西村委員より、提言の内容に基づいた構成案としたこと、各論では、多分野の執筆者を考えていることが説明された。

議論の結果、各論の執筆者がケアサイエンスをイメージできるよう、事前に講演やシンポジウムを行い、議論をする機会を持つことの必要性が確認された。少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会が、多分野の委員によって構成されることの必要性についても議論された。次期は、第一部、第三部の委員にも参加をしてもらえるようにする。

成書の出版元としては、日本学術協力財団が学術図書として『学術会議叢書』と『日学新書』を出版しており、書籍化の助成もあるため、第一選択として、ここに企画書を申請することを予定したい。構成案は、本分科会の意見をもとに修正することが確認された。

以上